

あぎ一君の つれづれダムだより



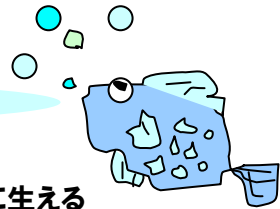
阿木川ダム防災資料館

今年は各地で記録的な積雪となりました。また、インフルエンザの流行が全国的に広がっており、警戒度が高まっています。立春が過ぎたとはいえ、まだまだ寒く、気が抜けません！

阿木川ダムのダム湖面が氷結する事はありませんが、諏訪湖の湖面が氷結し、今年は4年ぶりに「御神渡り」が、確認されたとのこと……先日、信州の方へいちご狩りに行った際に たまたま諏訪湖付近を通り、その貴重な現象を見る事ができました。思わずちょっとテンションがあがってしまい記念に写真撮影しました。（起日の記録は、500年にわたり保存されており、気候変動の資料として世界的に有名とのことです。）

自然の力はすごい！と驚くとともに、今後 温暖化が進むと、御神渡りの現象はあまり見られなくなるかもしれない……と思うと残念です。

ダム湖のさかな



防災資料館には水槽がありますが、（以前、～Vol. 4 にて七不思議現象!?の石に生える“黒い毛”とともに紹介しましたが）水槽にいる魚の種類【ギンブナ・オイカワ・タナゴ・シマドジョウ】も合わせて、阿木川ダムのダム湖には コイやフナ・アユ・モツゴ・バスなど25種類の魚が生息しています。また、阿木川ダムのアユは陸封アユ(海に流下せず陸水中に留まる)でダム湖産アユとして知られおり、稚鮎を放流しているとのこと。夏が近づく頃になると、お客さまより「釣りはできますか?」「何が釣れますか?」などといった問合せが多数寄せられます。釣りのマナーを守っていただき楽しんでいただけたら……と思います。



資料館の水槽で飼育している魚も 2年ほど前は十数匹いましたが、寿命などで数が減ってきました。ただ、1匹……2匹……と数が減っていくのに姿が見当たりません。「もしかして、食べた?…共食い?」と、しばらくの間“オイカワ”があやしい……とにらんでいました。（どうも 身体が大きくなり具合が他の魚達より早く、餌をあげると自分の身体よりひと回り大きな“ギンブナ”を押しのけるような勢いで、餌にまっしぐら! ～オイカワは雑食性で肉食性も強く、何でも食べる～ の事で、益々あやしい!）「おまえが食べたのか?!」と魚相手に話しかけても返事がくる訳もなく、何日か過ぎたある日のこと。水槽掃除をしていて浄化槽装置(水槽下に設置してあります)に通じている筒をスポンジで擦っていたところ、“スポツ!”っとスポンジが吸い込まれていき一瞬唖然……ふと、思いました。いなくなった魚ももしかしてこの中に吸い込まれた? 慌てて水槽下にある浄化槽装置のところを分解してみたら……いました! 1匹……(残念ですが ↓) (でも、いなくなった魚の数と合わない。やっぱり、オイカワなのか?)

※ 1年半位前の事です～筒に隙間があり、どうもそこから吸い込まれたらしいですが、今は塞いであります

また、不思議なこともありました。今から1年くらい前のこと…朝、出勤してみると水槽から魚が1匹飛び出て死んでいました。水槽の上にアクリル板を置いて蓋にしていますが、餌をあげられるように少しだけ隙間を開けています。どうも、そこから飛び出た様なのです。でも、その日はちょうど 3月11日。その日の午後、東日本大震災が起きました。あとから、地震の異変でも感じて飛び出たのかな……と思ったりもしました。

最近では、半分ほどに減ってしまいましたが、魚たちは広くなった水槽の中を元気に泳いでいます
～ ちなみに……その後、共食い現象はないです。

